



# たま病院ニュースレター

TAMA Hospital News Letter 2023



## 超高齢社会の我が国で、避けては通れない “慢性腎臓病 (CKD)”

腎臓・高血圧内科部長 富永 直人

当科は、当院が平成18年に開院した当時から開設されており、今年で丸17年の歳月が流れたこととなります。その中で疾病構造は変化し、中でも、超高齢社会を迎えた我が国において増加している慢性腎臓病 (Chronic Kidney Disease, CKD) は、既に国民病と言っても過言ではない程の状況 (成人の8人に1人) となっており、国をあげて取り組まなければならない重要な課題となっています。

当科では、尿検査異常から末期腎不全に至るまで、幅広い疾患および病態に対応しております。急性および慢性腎不全に対する透析療法 (血液透析、腹膜透析) のみならず、種々の疾患に対する特殊血液浄化療法も施行していますが、末期腎不全に進行した患者さんに対しては、医師と看護師 (腎センター) から腎代替療法 (血液透析・腹膜透析・腎移植) について、患者さんご家族にわかりやすくご説明した上で、どの方法を選択するかをご相談し、Shared Decision Making (SDM)、すなわち患者さんと医療スタッフが一緒に方針を決める

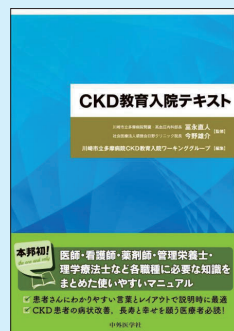
「協働意思決定」を通じて、方向性を導き出しています。また、腎移植は当院では行っておりませんが、腎移植医療において県下でも有数の実績を納めている聖マリアンナ医科大学病院の腎移植チームとの間で、スムーズに連携が取れる体制を構築しています。

一方で、我が国の人口に関する年齢構造の変化と同様に、腎不全患者さんの高齢化も顕著になっています。このような状況の中で、「透析の見合わせ」に関して、患者さんご自身の価値観を元に、ご家族と多医療職種等を交えた慎重な検討が必要となる重要な選択肢と考えており、腎代替療法の説明の際に、併せてご説明しています。また、高齢腎不全患者さんの将来の意思決定能力の低下に備えて、Advance Care Planning (ACP)、すなわち今後の治療・療養について患者さんおよびご家族とあらかじめ話し合うプロセス、透析開始/見合わせの意思決定プロセス、および緩和医療などに関して、日々検討し、患者さん一人一人に適した方法を模索しております。

### 部門紹介

## 腎臓・高血圧内科

健診・検診にて、慢性腎臓病 (CKD) に該当する、あるいは疑われた場合、症状は無くとも、かかりつけ医にご相談されることをお勧めします。その上で、必要に応じて、かかりつけ医に紹介状を作成いただいた上で、当科の外来を予約受診していただければと存じます。心血管系をはじめとする合併症の精査も含め、病状・病態を評価し、CKD教育入院 (当院CKD教育入院ワーキンググループにて作成した「CKD教育入院テキスト (中外医学社、2020年)」) を使用) 等もご提案します。その後、診療方針のご提案とともに、病診連携の一環として、かかりつけ医との間でも診療の方向性を共有します。



### CKD教育入院テキスト

富永直人 監修 / 今野雄介 監修 /  
川崎市立多摩病院CKD教育入院  
ワーキンググループ 編集  
2020年02月発行 B5判 86頁  
定価2,640円 (本体2,400円+税)

# 多摩区民祭へ出展致しました！

川崎市立多摩病院小児科 岩崎 俊之

2023年10月21日に、生田緑地で開催された第46回多摩区民祭に参加してきました(図1)。川崎市立多摩病院としては初出展でしたが、お天気にも恵まれて大盛況でした。私たちは、2種類のワークショップを準備して、市民のみなさまへの医学的な啓発活動に努めました。今回は、お子さまに看護師あるいは薬剤師としてのちょっとした体験を通して、医学と多摩病院に興味を抱いて頂けるように配慮しました。多くのお子さまに参加して頂いて(図2)、みなさんととても楽しそうに看護師、薬剤師の仕事を体験していました。

◀図1

- 図2 ワークショップ①  
「かんごしさんになってみよう！」 来場者：132名 参加者：75名
- ワークショップ②  
「やくざいしさんになってみよう！」 来場者：149名 参加者：76名



## ワークショップ①「かんごしさんになってみよう！」

看護師、助産師と小児科医(各1名)が担当しました。実際に赤ちゃん(新生児)の医療用モデル人形を抱っこしてもらいました(写真1)。首が座っていない赤ちゃんであり、その重さとともに新生児の特性に気付いて頂けたようでした。さらに、ベビーバスにお湯にみためた発泡スチロールを入れて、沐浴をして頂きました(写真2)。ベビーソープを使って、赤ちゃんの体の洗い方も体験して頂きました。男の子が多く参加してくれて、「重い」とか「大変だ」という感想を楽しそうに言ってくれました。将来の『イクメン：育児・子育てに積極的なメンズ』になってくれることを期待しております。



▲写真1

▲写真2

## ワークショップ②「やくざいしさんになってみよう！」

こちらは、薬剤師4名が担当しました。薬液を点滴ボトルに注入する作業(向かって右側)と塗布剤(軟膏)を調剤する作業(左側)を体験して頂きました(写真3)。いずれも、きれいな色がみられるので、お子さまは興味津々な様子でした。また小児用ではないのでやや大きかったのですが、白衣を着て嬉しそうなお女の子が多かった印象があります。



▲写真3

とくに好評であった軟膏の調剤を説明します。まず、ベースになる白色ワセリンをボードの上に絞りだします(写真4)。キラキラしたラムを6色の中から選んで、スパーテルで取り出します(写真5)。さらに、調剤用のへらで混ぜて(写真6)、軟膏容器に詰めるまでの行程を体験して頂きました。



▲写真4



▲写真5



▲写真6

今回、区民祭に参加して、「この子は、多摩病院で生まれました。」「うちの家族はみんな、多摩病院にお世話になっているよ。」などの嬉しいお言葉をたくさん頂きました。これからも、このような機会を大事にして、市民のみなさまのために情報発信、貢献する多摩病院であることをお伝えしてまいります。最後に今回頑張ってくれた、スタッフの笑顔をお届けします。



※保護者の方の了承を得て撮影および掲載しています。